



海を渡った日本の錦鯉の美的特徴

観賞用の日本唯一の国魚、錦鯉は「泳ぐ宝石・芸術品」と呼ばれ、極彩色で美しい。

赤・白・黒・黄・茶・紺・緑・金・銀などの色彩が見られ、模様も唯一無二である。錦(にしき)のように繊細で美しい模様を持ち、優雅に泳ぐ姿から、錦鯉と命名されている。

平和に群れ泳ぐことを好み温和で優しい性格から、平和の象徴・幸運を招く魚としても愛されている。1800年頃に黒っぽい色の真鯉から、突然変異によって真っ赤な緋鯉が誕生しており、原産地は新潟県の二十村郷地域。今では世界の50カ国以上に輸出され、koiでも通用するくらい世界に浸透している。雑食性で長生きし、50歳を超える錦鯉もいる。

白地に赤い模様の代表的品種の「紅白」や、頭部が白色で体色が青系の「浅黄」などは、明治時代に誕生している。大正時代には紅白に黒斑の華麗な「大正三色」、昭和時代には大正三色より黒が多い豪快な「昭和三色」、全身が金色に輝く「黄金」、紅白模様に網目状の鱗の「孔雀」など、鮮やかな錦鯉が生まれている。

アジアでは色が鮮やかな「紅白・大正三色・昭和三色」が好まれ、欧米では小型の錦鯉を水槽で飼う傾向がある。 (吉村耕治)

●新刊紹介 「広重ぶるう」

梶よう子著、2022年、新潮社刊、2,310円
浮世絵師・歌川広重(1797-1858)を主人公に、江戸後期の世相や出版をめぐる状況が生き生きと描かれた小説。

家族や弟子たちとの関係性や版元との丁々発止のやりとり、錦絵(多色摺りの浮世絵木版画)を制作する姿勢から浮き彫りになる広重の生きざまに引き込まれる。

天保の改革では錦絵も贅沢品として規制の対象となり、役者絵や美人画は禁止、刷りに使う色数も減らされた。広重は人物や動物を引き立てるために描かれてきた風景を革新的構図で表現し、背景から主題へとひっくり返した作風によって、この厳しい時期を生き延びた。その集大成がジャポニスムの動向の中でも西洋美術にもっとも顕著な影響を与えたシリーズといわれる『名所江戸百景』だった。

ベロ藍(プルシャンブルー)は、それまでの青色染料にはない水溶けと色伸びのよさで、淡い青から深い藍まで豊かな階調を出すことができた。

その叙情あふれる彩りは、広重作品の空の広さや奥行き、河海の深浅に落とし込まれ、今も私たちの目を楽しませてくれる。

(ミツ塚由貴子)

●大辞泉ひろいよみ 5一あ

浅縹：薄い縹色。養老の衣服令で、初位の人の袍の色。

浅緑：薄い緑色。養老の衣服令で、七位の人の袍の色。

浅紫：薄い紫色。養老の衣服令で、二位・三位の人の袍の色。

鮮やか：ものの色彩・形などがはっきりしていて、目立つさま。

小豆色：小豆の色に似た暗赤色。

後刷り：木版画などで、初刷りした版木で再び刷ること。また、その印刷物。後版。

後染め：白生地に織り上げてから染色すること。また、染めたもの。(逆は先染め)

亜麻色：亜麻糸の色。

飴色：水飴のような色。透明な黄褐色。

洗い朱：黄みを帯びた、丹色に近い朱。

荒染・退紅：紅花で染めた薄紅色。

荒妙・粗糲：あらたえ。上代、木の皮の繊維で織った、織り目の粗い布の総称。

暗紅：黒みがかったあかい色。黒ずんだ紅色。

暗紅色：黒みを帯びたあかい色。

暗黒・闇黒：真っくらなこと。全く光のささないこと。くらやみ。また、そのさま。

暗紫色：黒みがかった紫色。

暗赭色：黒みがかった赤茶色。 (永田泰弘)